

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立若楠小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕 | 主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など | <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容 |

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

| 児童生徒に対する調査 | 学校に対する調査 |
|-----------------------------|--|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査 |

■ 調査結果及び考察について

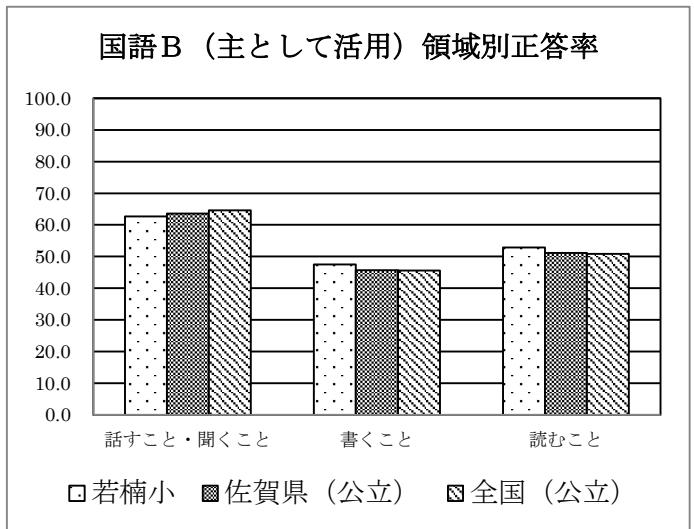
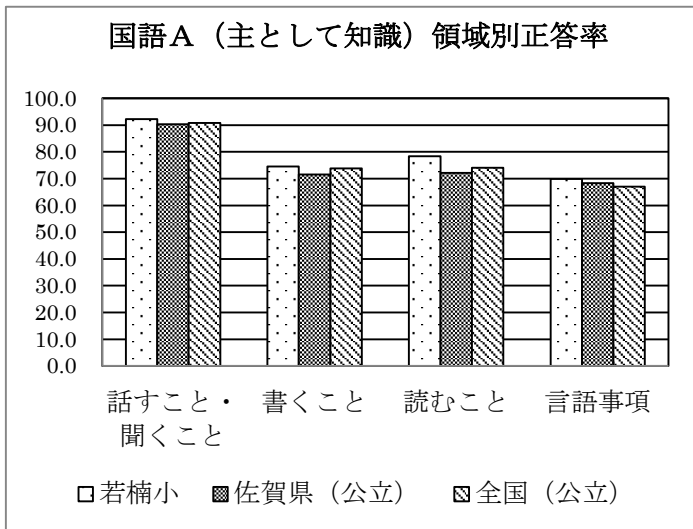
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学・理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

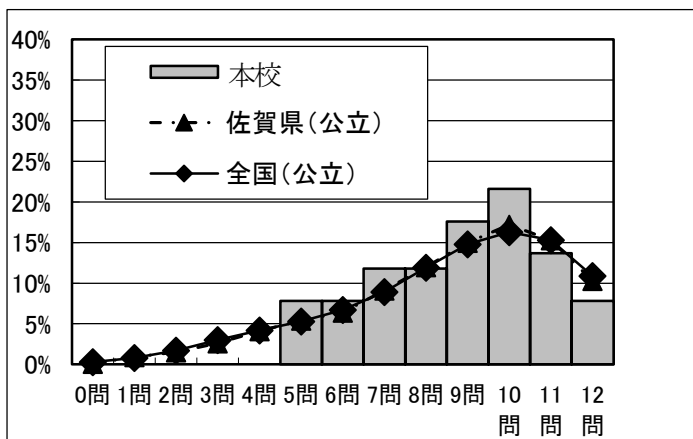
1 国語

(1) 結果

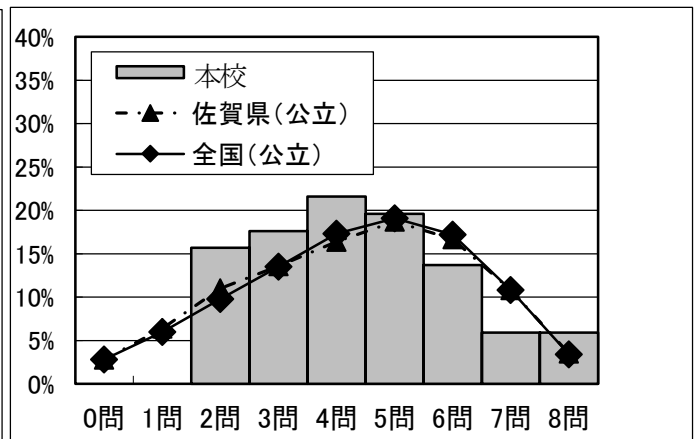
① 全国正答率及び県正答率との比較



② 正答数の分布（国語A）



（国語B）



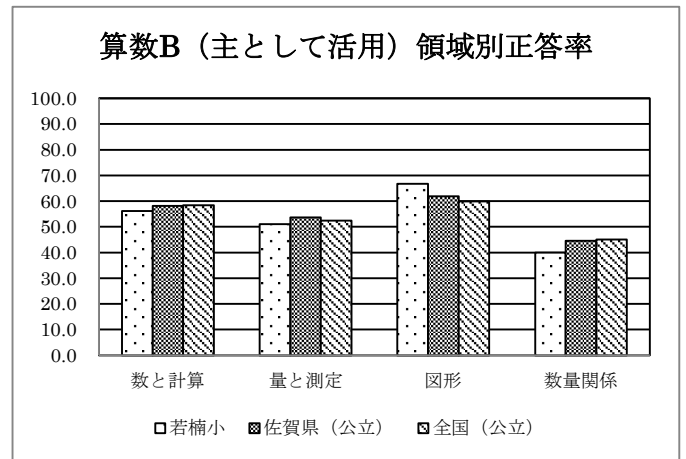
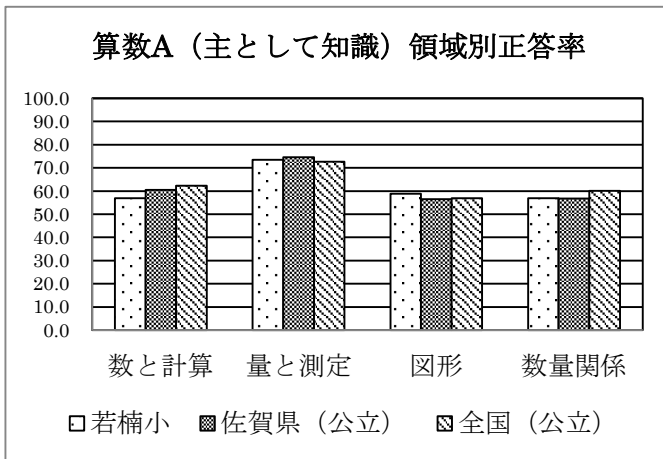
(2) 成果(○)と課題(●)

- 国語の「知識・理解」、「活用力」については、どちらも佐賀県平均、全国平均ともに上回っている。
- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例等を挙げながら筋道を立てて話す問題については92.2%との正答率は高い。
- 慣用句の問題の正答率は92.2%で、多くの児童が日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことができている。
- 登場人物の心情について情景描写をもとに捉えることができている。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく書くことができている。
- 無回答率が低い。
- 文中の主語と述語の関係を考えて、つながりが合っていない文を書き直すことができていなかった。
- 知識技能、文中での語句に注意して語順などを正しく書くことができていない。
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率が15.7%で低い。
- 旁（つくり）が同じ漢字に間違いが多い。

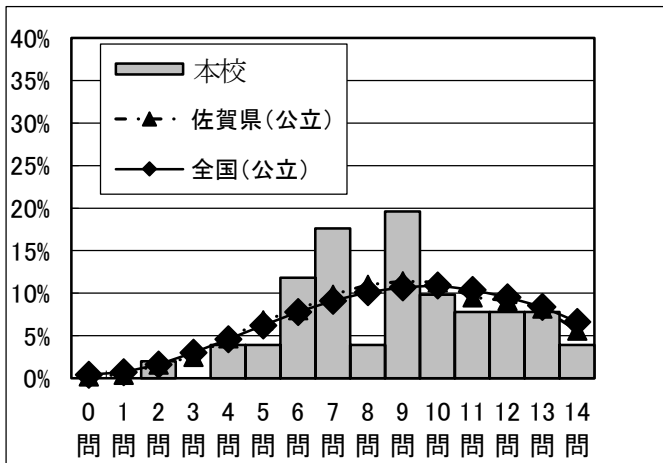
2 算数

(1) 結果

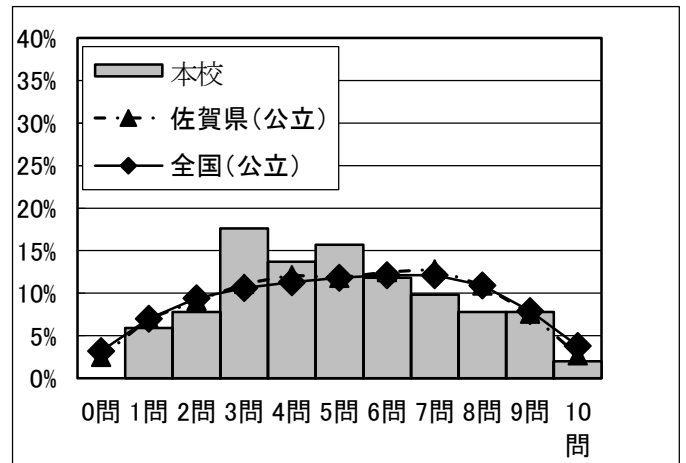
① 全国正答率との比較



② 正答数の分布（算数A）



（算数B）



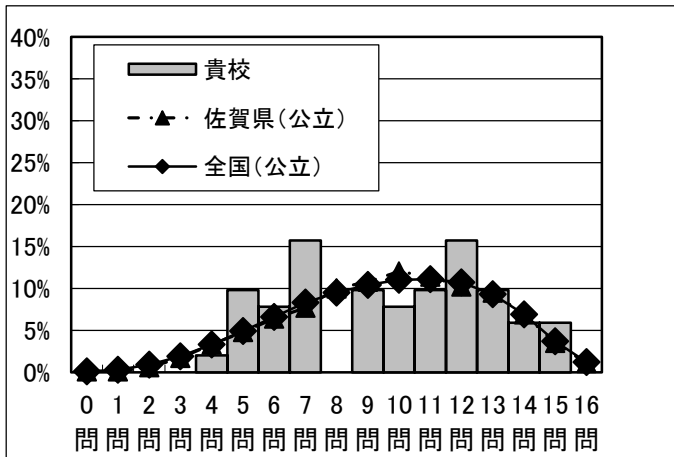
(2) 成果(○)と課題(●)

- 算数の「知識・理解」については、佐賀県・全国レベルとほぼ同等である。
- 図形領域については、佐賀県・全国平均ともに上回っている。
- 面積が同じ2つのシートの混み具合の比べ方を問う問題の正答率は98.0%と高い。
- 十進位取り記数法で表された数の大小について理解している。
- 無回答率が低い。
- 数量関係領域の正答率が、「知識」「活用」とともに佐賀県・全国平均と比べると低い。
- データの要素が2つ以上書かれたもので、表から必要な数値を区別して読み取ることができない。
- 「 $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選びましょう。」のような式から場面を想像する問題の正答率が低い。
- メモの情報とグラフを関連づけたり、示された情報を解釈し、条件を変えられた数量関係を式に表現したりする問題において、情報を整理できておらず、必要な言葉を使って説明できていない解答が多くある。
- 問題文が複数ページに渡る問題や記述式の問題に苦手意識があり、無回答率が高く、正答率が低くなっている。
- 正答数分布では、佐賀県・全国平均と比べると下位層の数が多い。

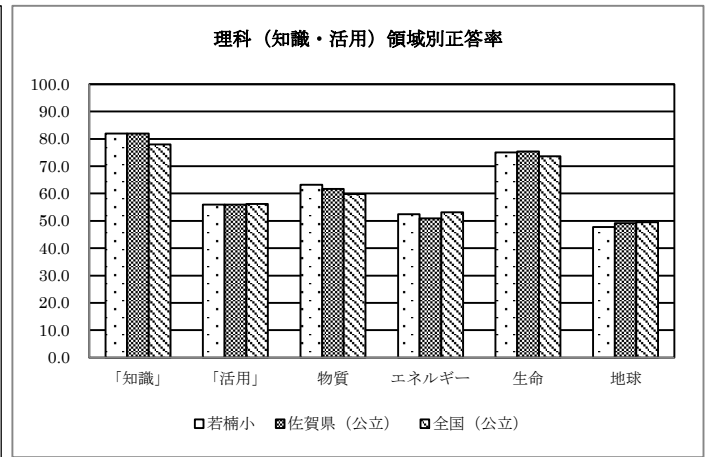
3 理科

(1) 結果

① 全国正答率との比較



② 正答数の分布 (理科)



(2) 成果(○)と課題(●)

- 理科「知識」は、正答率は佐賀県平均とは同等で、全国平均と比べると高い。
- 無回答率が低い。
- ろ過の適切な操作方法の技能が身についている。
- 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる。
- 「活用」に関する問題の正答率が低い。
- 記述式の問題の誤答が多く、理科実験や事象を説明するのに必要な言葉を適切に使うことができていない。
- 「生命・地球」分野の地球に関する領域の問題の正答率が低い。
- 理科の学力が二極化している。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣に関する項目》

※「そう思う」「だいたいそう思う」の合計

| 調査項目 | 本校 % | 佐賀県% | 全国平均% |
|--|-------|------|-------|
| 毎日、同じくらいの時間に起きている。 | △94.2 | 89.7 | 88.8 |
| 毎日、同じくらいの時間に寝ている。 | △85.1 | 77.1 | 77 |
| 朝食を毎日食べていますか。 | △96.2 | 94.4 | 94.5 |
| 放課後に家で勉強や読書をして過ごしている。 | ▼63.5 | 66.0 | 64.1 |
| 放課後に塾など学校や家以外の場所で勉強している。 | ▼21.2 | 24.2 | 32.2 |
| 放課後にスポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている。 | △53.8 | 51.9 | 47.2 |
| 放課後にテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームやインターネットをしたりしている。 | ▲84.6 | 79.9 | 81.0 |

《家庭学習に関する項目》

| 調査の項目 | 本校% | 佐賀県% | 全国平均% |
|---------------------------------|--------|------|-------|
| 普段（月～金曜日）1日あたり1時間以上勉強している。 | ▼63.5 | 64.6 | 66.2 |
| 普段（月～金曜日）全く勉強をしない。 | ▼1.9 | 2.2 | 2.5 |
| 家で、学校の宿題をしている。（どちらかといえばしているも含む） | △100.0 | 97.3 | 97.1 |
| 家で、授業の予習・復習をしている。 | ▼51.9 | 60.4 | 62.6 |
| 平日読書を30分以上している。 | ▼40.4 | 40.4 | 41.1 |

(2) 成果(○)と課題(●)

- 佐賀県・全国平均と比べると、宿題をきちんとしている児童が多い。
- 人の役に立ちたいと答える児童が多い。
- 6年生算数・理科が好きと答える児童が多く、学習内容も理科ができていると答える児童が多い。
- 朝食を「まったく食べていない」という児童がいない。
- 1日に勉強している時間の割合が低く、特に2時間以上の割合が低い。
- 読書をする児童の時間の差が大きい。(1時間以上…23.1%、10分～1時間…40.4%、10分未満…30.7%)
- 放課後、読書をして過ごす児童の割合が低い。
- 放課後、テレビやDVDを見たりゲームをしたりする児童が佐賀県・全国平均と比べて多い。

■学力向上にむけた取り組み

以上の分析を踏まえ、学校として以下のような方策を立てて、学力向上に取り組んでいきます。今回の結果は6年間の学習の積み重ねによるものにとらえ、学習内容や発達段階に応じて全学年を通じて計画的、継続的な取り組みをしていきたいと思っております。

学校での指導の重点

- 自分の考えを構成し、グループや全体の中で伝え合う学び合いの場を設定する。
(例) 授業の中で、自分の考えを発表する機会を多く設定、グループで話し合う活動
- 単元のゴールを提示して、どんな考え方が整理をさせて単元の振り返りを行う。
(例) 学習の中で身につける力を具体的に示す。解決のための考え方を文章化させる。等
- 問題文に印をつけて、条件や情報を整理しながら解決していく指導をする。
(例) 問題文の数字に□印、たずねられていることに○等、「なぜ」→「～だから」等の文末表現の仕方

家庭での取り組みのお願い

- 引き続き「ここにこ家族会議」(自主学習の習慣化・生活習慣の見直し)へのご理解とご協力をお願いします。3点固定(学習時間、寝る時刻、起きる時刻)を意識し、生活のリズムを整えてください。テレビやゲームの時間のルールが決められているといいですね。
- 勉強好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな。」「おもしろいな。」「ふしぎだな。」と思う経験をさせるのが一番です。例えば、生活場面で算数を使ってみてください。「お菓子数えてかけ算」「お菓子分けでわり算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「買い物で概数」「家の中で図形さがし」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには使える教材がたくさんあります。
- できた・できなかったの成果に目を向けるのではなく、がんばっている姿や解決しようとする姿に目を向けて、しっかりとほめ、認めてください。子どもたちが自信をもてるようにしていきましょう。